

スイカのトンネル栽培における有望品種検討

1 目的

トンネル栽培での適品種を選定する。

2 方法

1) 供試品種

‘味きらら’ (慣行：大和農園)、‘DR-60’ (大和農園)、‘筑波の香’ (東洋農事)、
‘祭ばやし 11’ (萩原農場)、‘NW-129’ (ナント種苗)

2) 試験区の規模 1区10株 2区制

3) 実証面積 2.4a

4) 耕種概要

- (1) 播種日 2月26日 (穂木) 3月3日 (台木 ‘FR 不死鳥’)
 (2) 接ぎ木日 3月15日
 (3) 定植日 4月19日
 (4) 栽植密度 株間80cm、畦幅500cm、250株/10a
 (5) 整枝法 6本整枝3果穫り
 (6) 施肥量 N:20.7 P:28.7 K:15.6 (成分量 kg/10a)
 (7) 着果期 6月10日～6月22日
 (8) 収穫期 7月19日～7月23日

肥料名	施肥量(kg/10a)	
	基肥	追肥
セルカ	80	
有機重焼燐	40	
油かす	108	
レオユーキオール 8	72	60
固形 30 号		40

3 結果の概要・要約

- 1) 着果期が‘筑波の香’、‘NW-129’が早かったが、収穫期は、どの品種も慣行品種と同程度であった。
 2) 1果重は、‘祭ばやし 11’ > ‘筑波の香’ = ‘NW-129’ > ‘DR-60’ > ‘味きらら’であった。
 3) 収量は、‘DR-60’が慣行品種より高かった。
 4) 糖度については、どの品種も慣行品種と同程度であったが皮際まで高かったのは、‘DR-60’であった。

本年度については、‘DR-60’が慣行品種より同等以上と考えられる。

4. 具体的数字等

表1 収穫調査

品種名	平均	平均	収穫率	1果重	1株当たり 着果数	収量	果高	果径	花座径	皮厚	糖度		備考
	着果日	収穫日									中心	皮際	
	月/日	月/日									Brix %	Brix %	
味きらら	6/18	7/21	94	6.0	2.8	3.9	22.3	22.1	1.2	1.4	12.9	9.7	つる枯れ、炭そ病少発
DR-60	6/17	7/20	94	6.3	2.8	4.2	22.7	23.1	1.1	1.0	12.7	11.0	〃
筑波の香	6/16	7/20	86	6.7	2.6	3.7	23.5	23.4	1.2	1.1	12.5	10.1	〃
祭ばやし 11	6/19	7/21	86	7.1	2.6	3.9	23.3	24.2	1.0	1.1	12.7	10.2	〃
NW-129	6/16	7/20	86	6.7	2.6	3.7	23.5	23.4	1.2	1.2	12.7	9.5	〃

※1 収量=栽植密度×着果数×収穫率×1果重で算出